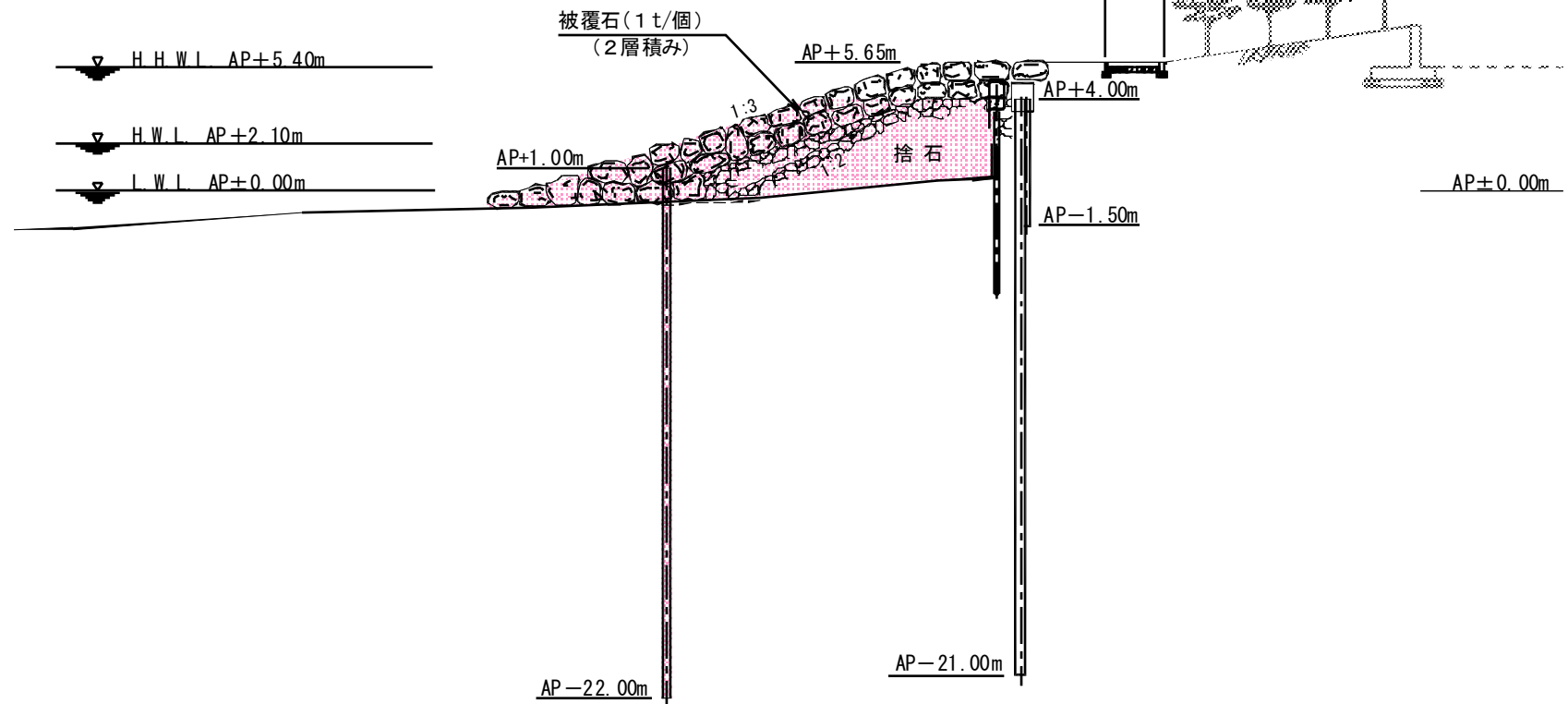
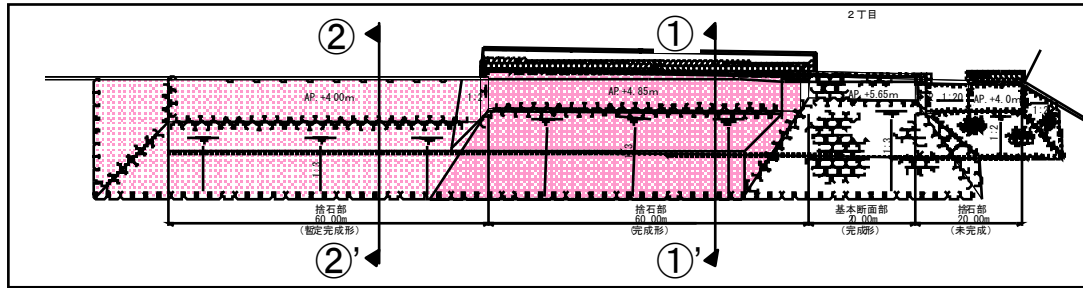


断面图

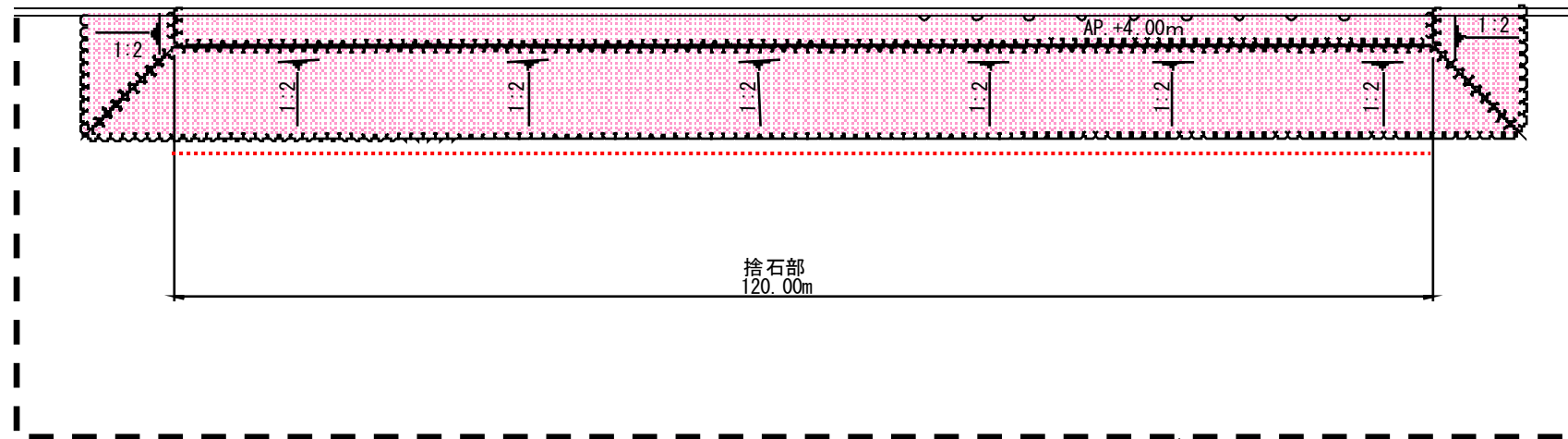
B案：第1工区 ②-②' 断面



護岸配置計画図

A案、B案：第2工区

中詰めの捨石(+4.0m)と海側のH鋼杭を施工していく
※H19年度工事進捗量：捨石120m



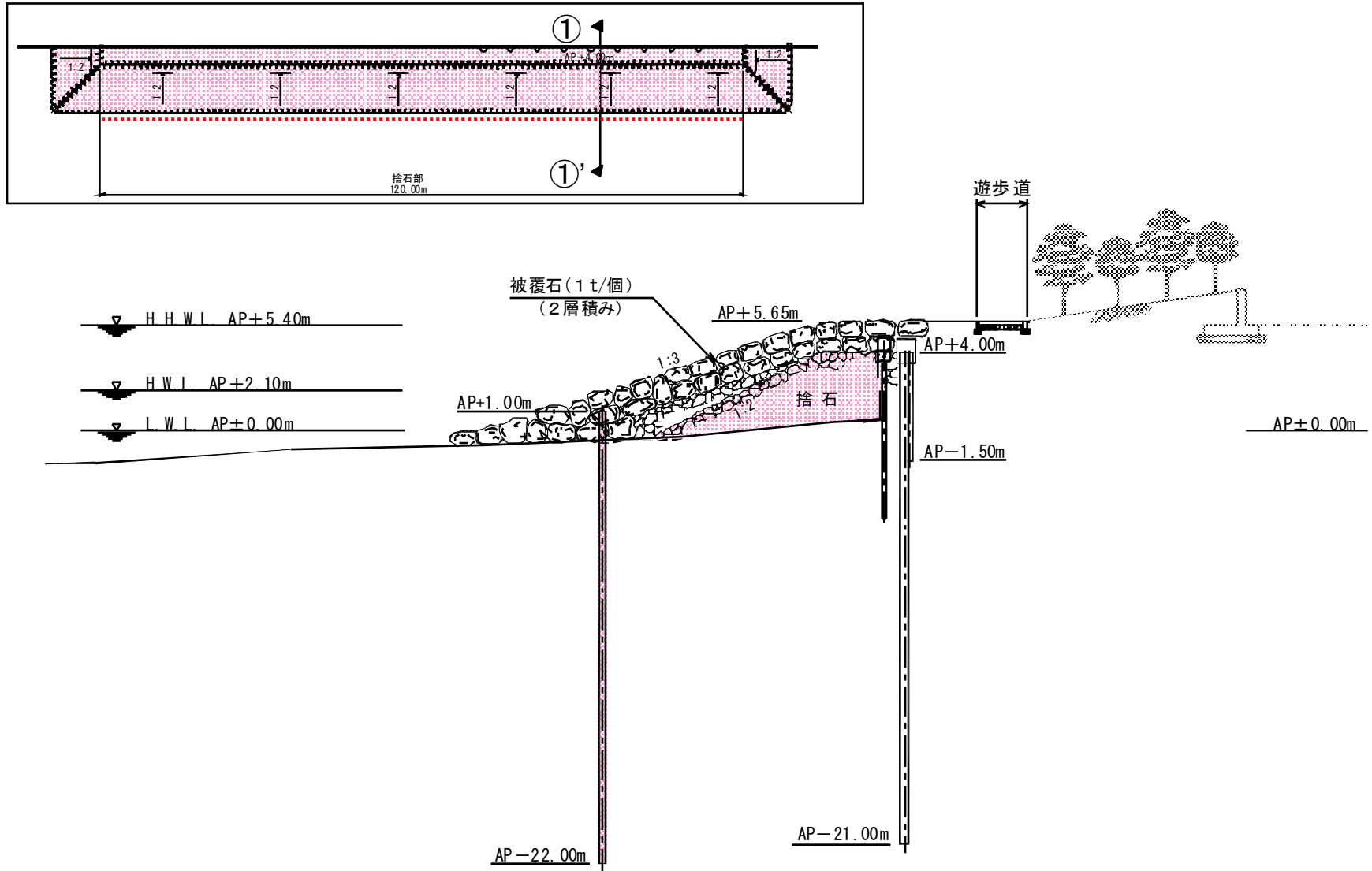
工事中における環境への配慮事項

- ・汚濁防止膜の設置による海水の濁りの拡散防止
- ・ノリ養殖時期を外した海域工事期間の設定（4月～8月）
- ・海岸保全区域内での海上工事

汚濁防止膜

断面図

A案、B案 第2工区 ①-①' 断面



平成 19 年度のモニタリング調査計画 (案)

塩浜2丁目のH17～H19年度施工区間を対象とする。

区分	項目	目的	方法	時期 (間隔)	数量等
検証項目	地形	<ul style="list-style-type: none"> 護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 洗掘等による周辺地形の変化の把握等 	地形測量	春季： 4月 秋季： 9月 の年2回	<ul style="list-style-type: none"> 第1工区(A案)：岸沖方向100m × 20測線 = 測線延長2,000m 〃 (B案)：岸沖方向100m × 11測線 = 測線延長1,100m 第2工区：岸沖方向100m × 9測線 = 測線延長900m L-2対照調査：岸沖方向100m × 1測線 ※施工範囲の端部周辺地形を捉えるため、施工範囲の両側に測線を追加する。
	底質	粒径の変化の把握	採泥・粒度試験	春季： 4月 秋季： 9月 の年2回	<ul style="list-style-type: none"> 潮間帯生物 (目視観測) 調査の 3 測線で 10m 間隔で採泥 (11 検体, 緊急補修部は除く) : 合計 33 検体
	生物	潮間帯生物の定着状況 ※調査は公開とし、ライントランセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。	ライントランセクト法による観察	施工前：4月 (H19) 施工後1ヶ月：9月 (H19) 施工後5ヶ月：1月 (H20) 施工後8ヶ月：4月 (H20)	<ul style="list-style-type: none"> 第1及び2工区の中央部に1測線, 対照区として測線L-2の1測線 (100m) 及び塩浜1丁目の緊急補修部の計4測線 石積護岸(斜面上)：方形枠 (50cm×50cm) による連続目視観察 のり先から離岸距離10mまで1m間隔 のり先から離岸距離10～100mは10m間隔 第1工区の東側端部の1地点においても観察
			採取分析	※H18年度施工箇所についても同時期に調査	<ul style="list-style-type: none"> 第1工区及びL-2の2箇所における採取分析4検体 1箇所当り高、中、低潮帯、のり先の4検体
	景観	住民アンケート	地元自治体住民より無作為抽出のアンケートを実施	護岸全体の平面配置図、設計上の配慮事項を作成後	調査内容は護岸検討委員会で検討し決定する。 ex) アンケート調査等
<ul style="list-style-type: none"> 施工中の周辺域との景観の調和 石積へのごみの堆積状況の把握 		委員、一般市民参加による見学会形式	施工後数回	実施時期については、完成後の経過時間と台風後などの状況を踏まえて決定する。	
検証材料	波浪 (流況)	物理環境への外力 (波、流れ) 把握を目的とする。 <ul style="list-style-type: none"> 波高・波向の計測 流れの計測 (海底面上約 1m) 	波高・流速計の設置	<ul style="list-style-type: none"> 9月と10月 3月と4月 最長 2ヶ月×2回/年 	<ul style="list-style-type: none"> 第1工区の護岸前面の1箇所 (30日～60日連続観測；目的とする外力が把握される時点までとする)
	青潮時の溶存酸素量測定 生物環境への外力把握を目的とする。	DO計による測定	青潮発生時	<ul style="list-style-type: none"> 第1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面 	